

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立静岡聾学校 P T A	
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
	全校児童・生徒数	本校在籍22人 通級指導教室33人

1. 使用状況

寄贈物品名	パスアラウンドマイク (補聴援助システム)
使用学年及び人数	本校在籍22人、通級指導教室33人
使用頻度	学校行事、学部集会、授業の内容に応じて適宜使用
使用状況	<p>・本校では、補聴援助システム「ロジャー」を使用して、集団や騒がしい環境でも聞き取りやすい音環境を作っている。授業では、タッチスクリーンマイクという送信機を教師が首にかけ、子供たちは、人工内耳や補聴器に受信機をつけており、教師の声がダイレクトに届くようにしている。</p> <p>パスアラウンドマイクをタッチスクリーンマイクと接続することで、2台目の送信機として使用し、授業や集会、行事で話し手が複数いるときに使用している。また、ICT機器のスピーカー部分にパスアラウンドマイクを置くことで、音楽や英語の音声も聞き取りやすくしている。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>・以前は、集会や行事で司会が首にかけていたタッチスクリーンマイクをかけ替えて回して使用していたが、スタンドマイクで設置することで、スムーズに話をするができるようになった。</p> <p>・学習発表会では、今までマイクの数が少なくステージの各所に設置することができなかった。今回の寄贈により、4台同時にマイクを設置することができ、子供たちの声だけでなく、楽器の演奏もマイクで音を拾うことができ、観客に伝えることができた。</p> <p>・プロジェクターやタブレット端末の近くにパスアラウンドマイクを置くことで、機器から流れる音声も教師の説明も両方とも周りの環境に左右されることなく聞くことができるようになった。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>・幼稚部の集団活動での効果的な使用方法を検討していきたい。</p> <p>・子供たちが機器の使用になれ、聴こえ方についてより意識を高め、卒業後も活用できるような働きかけをしていきたい。</p> <p>・今後は、各学部に設置し、使用しやすい環境整備をしていきたい。</p>
その他 希望や所感など	

2. 活用の様子

授業中は、教師が親機となるタッチスクリーンマイクを使用し、発表者がパスアラウンドマイクを使用して発表することで、教師の声も発表者の声も互いに聞き取れるようにしている。

話し合い活動や学部集会では、司会の児童生徒が親機であるタッチスクリーンマイクを使用し、発表者がスタンドに設置したパスアラウンドマイクの前に立ち話をしたり、パスアラウンドマイクを回して意見を言うようにしている。



始業式終業式では、司会者や発表者がパスアラウンドマイクを使用し、デジマスターというスピーカーとも接続することで、ロジャーを使用していない人にも音を大きくして伝えることができるようにしている。

学習発表会では、体育館に常設していたループシステムよりも音質の良いロジャーシステムを使用した。パスアラウンドマイクが4台になったため、ステージの各所にマイクを設置することができ、子供たちの声を観客に届けることができた。

